



せたがや区議会だより

No.209

平成19年(2007年)4月27日
発行 世田谷区議会

〒154-8504 世田谷区世田谷4-21-27
TEL (5432) 1111代表 FAX (5432) 3030
http://www.city.setagaya.tokyo.jp/kugikai/

平成19年度予算、政務調査費交付条例を 改正する条例などを可決

第1回 定例会



生涯現役フェア2007の地域ライフ見本市での様子

議決内容

議決された案件の概要をご紹介します。今回の定例会には、区長から57件の案件が、議員から3件の案件が提出され、すべて原案どおり可決しました。

●19年度各会計予算 5件

○一般会計
賛成多数 賛成：自民、公明、政策、虹、無所属
反対：区民連、共産、改革派、無党派

○国民健康保険事業会計

賛成多数 賛成：自民、公明、政策、改革派
反対：区民連、共産、無党派

○老人保健医療会計

賛成多数 賛成：自民、公明、政策、改革派、虹、無所属
反対：無党派

○介護保険事業会計

賛成多数 賛成：自民、公明、政策、改革派
反対：区民連、共産、無党派

○中学校給食費会計

賛成多数 賛成：自民、公明、政策、改革派、虹、無所属
反対：無党派

●関連記事は6、7ページに掲載
●18年度各会計補正予算 4件

○一般会計(第三次)

賛成多数 賛成：自民、公明、政策、改革派、虹、無所属
反対：共産、改革派、無党派

○国民健康保険事業会計(第二次)

賛成多数 賛成：自民、公明、政策、改革派、虹、無所属
反対：共産、改革派、無党派

○老人保健医療会計(第二次)

(全員賛成)

○介護保険事業会計(第二次)

賛成多数 賛成：自民、公明、政策、改革派、虹、無所属
反対：共産、改革派、無党派

―補正後の予算額は次のとおり。

一般会計 二二七九億一六三万六千円
国保会計 七〇億一七三万八千円
老保会計 五八九億七二七万九千円
介護会計 三七五億一〇三万九千円

●条例の新設 2件

○ユニバーサルデザイン条例 (全員賛成)

すべての人にとって利用しやすい生活環境を整備するための区、区民、事業者の役割や施策の推進に係る基本的事項などを規定。高齢者、障害者等が利用しやすい建築物条例(全員賛成)
バリアフリー新法の規定により、特別特定建築物に追加する特定建築物などを規定。

●条例の改正 32件

○助役定数条例(全員賛成)

○組織条例(全員賛成)

○特別職報酬等審議会条例(全員賛成)

○区長等の給料条例(全員賛成)

○監査委員の給与条例(全員賛成)

○教育長の給与・勤務時間条例(全員賛成)

○教育委員会委員の報酬・費用弁償条例(全員賛成)

○選挙管理委員の報酬・費用弁償条例(全員賛成)

○農業委員会委員の報酬・費用弁償条例(全員賛成)

○区議の報酬・費用弁償条例(全員賛成)

○区長等の退職手当条例(全員賛成)

○職員定数条例(全員賛成)

○財産の交換、譲与、無償貸付等条例(全員賛成)

○財産評価委員会条例(全員賛成)

○区税条例(全員賛成)

―以上15件は、地方自治法の改正に伴い助役を副区長に改めることや収入役の規定を削除することなど。

○手数料条例(全員賛成)

○宅地造成工事の変更許可申請手数料などの新設、飲食店営業許可申請手数料の改定など。

○職員の勤務時間、休日、休暇条例(全員賛成)

公職選挙法の規定により、議員の寄附行為や時候のあいさつ状などは禁止されています。(8ページへ続く)

問 質 表 代

自由民主党世田谷区議団

小畑 敏雄議員

今後の行財政改革の方向

質問 区民ニーズの変化に、機敏に対応できる行財政改革が必要だ。区長はこれまでの成果に満足せず、経費の削減に努めるとともに、サービスの質を高める改革を目指せ。
区長 今後も私が先頭に立って、効率的で質の高い行政を目指す。

19年度予算の基本方針

質問 区民の目線による区政運営を評価し、さらなる飛躍を期待する。区長の政治姿勢をあらわす19年度予算の基本方針を示せ。
区長 安全安心施策を基本に、区民生活に密着した予算を編成した。まちのステーション事業

質問 区は世田谷まちのステーションを設置し、まちの情報や休憩場所などを提供する新たな事業を始める。まちの魅力向上と区内産業の一層の活性化につなげよ。
産業政策部長 初めに鎌田地区に開き、食育などの事業を展開する。

障害者自立支援策の展開
質問 区は障害者の自立支援として、福祉サービスの提供や障害福祉計画の策定を進めている。障害者が自立して暮らせる社会の実現に向けた施策を今後も展開せよ。
助役 相談支援の強化や就労移行支援事業などの施策に取り組む。

まちづくりに関連する条例の改正
質問 条例などで定めた一律の基準が、地域特性に合った住民本位のまちづくりの弊害となることがある。関連する条例などを総点検し、必要に応じて改正せよ。
都市整備部長 社会状況などの変化を念頭に、今後も見直ししていく。

建築計画説明会の開催の義務化
質問 中高層住宅建設計画の際に、事業者が説明し住民が意見を述べることがある。紛争は減り、まちづくりへの責任感も生まれる。建築計画の説明会開催を義務づけよ。
都市整備部長 まちづくりに有効

と認識しており義務化を検討する。

住宅の耐震化の促進

質問 区は現在、耐震改修促進計画を策定中だ。住宅都市である世田谷の特性を十分に踏まえ、計画で掲げる住宅の耐震化率の目標数値は、国や都を上回るものとせよ。
区長 住宅の耐震化率は、国や都の90%を上回る95%としたい。

自動二輪車の違法駐車対策の推進
質問 区は自動二輪車違法駐車対策として重点地域を指定する予定だ。取り締まりを重点地域に限定した結果、周辺の住宅地に新たな違法駐車を招かないよう対応せよ。
交通政策部長 違法駐車状況により重点地域の見直しを検討する。

区民に開かれた教育委員会
質問 教育委員会の活動は、区民や学校現場から見てわかりにくい。教育への信頼を一層深めていくためにも、活動や議論の見える開かれた教育委員会を目指せ。
教育長 多くの区民に理解される、地域と一体の教育活動に努める。

公明党世田谷区議団

谷 逸子議員

いじめ問題解決への区長の見解

質問 子どものいじめ問題の解決には、学校全体でいじめを絶対に許さないという姿勢を示し、いじめている子を粘り強く指導することが重要だ。区長の見解を示せ。
区長 いじめられる子の保護と、いじめられる子の徹底的指導が必要だ。
教員への支援の強化
質問 子どもの教育の大半を担う学校の教員を支えるべきだ。教員サポーター制の導入など、熱心な教員が意欲を持ち続け、教育に専念できるような環境を整えよ。
教育長 学校支援コーディネーターによる取り組みを進める。

入札予定価格の十分な精査
質問 入札改革の目標の一つでもある予定価格の適正化が重要だ。プロの技術者がコスト面から予定価格を精査する仕組みをつくれ。

職員は資質向上を図り、予定価格の精度を一層向上させる。

多重債務者向け相談窓口の設置

質問 多額の借金を苦しめた自殺者が増加しており、区民生活に身近な区としての多重債務者対策が急務だ。相談窓口を設け、職員と弁護士が連携して対策を展開せよ。
財務部長 窓口の設置については、都の事業の動向を見て検討する。

療養病床削減への区の対応
質問 国が示した療養病床の削減方針により、今後多くの人が退院を迫られる。区は、ケアハウスの整備を含めた実効性ある計画を早急に示し、区民の不安を解消せよ。
助役 ケアハウスとショートステイ100床ずつの緊急整備を目指す。

妊婦健診費用の助成
質問 妊婦健診は母体や胎児のために大変重要。健康保険が適用されず経済的負担が大きい。都内自治体共通の2回分の助成にとどまらず、区として積極的に支援せよ。
保健所長 都内全自治体による協議の結果を踏まえ、検討する。

仮称産後ケアセンターの取り組み
質問 開設予定の仮称産後ケアセンターは、育児不安や養育困難などを抱える母親を、妊娠中から産後まで切れ目なく支援する重要な施設だ。具体的な支援内容を示せ。
子ども部長 母体の休養や子育ての楽しさの体験ができる場とする。

みどり率33%の達成
質問 農地の宅地化や相続による屋敷林減少などで減っていた緑が、区の努力で若干増えていると聞く。これを機に、区が掲げたみどり率33%の達成に前向きに取り組め。
区長 従来の発想を払拭し、もつと緑を増やすための施策を行う。

清流復活事業のさらなる推進
質問 烏山川や北沢川のせせらぎの整備が進み、区民の心に潤いをもたらす場として喜ばれている。今後は未計画の環7以西や水辺を失った地域の清流を復活させよ。
せせらぎ部長 清流再生に向け、すべての河川や水路などを調査する。

民主党・生活者ネット・社民党世田谷区民連合

西崎 光子議員

入札制度改革の推進

質問 全国で公共工事をめぐると不祥事が相次いでおり、談合が起きない入札制度の確立が急務だ。透明性や信頼性の高い入札制度の構築に向け、積極的に改革を進めよ。
財務部長 外部委員による検討組織の提言を受け、具体化していく。

施設整備関連予算の増大への懸念
質問 19年度予算案では、子育て支援のための新たな施設整備など、投資的経費の大きさが目立っており、将来の施設運営経費の重い負担が懸念される。区の見解を示せ。
政策経営部長 施設整備後の後年度の財政負担も十分考慮している。

委託事業の評価制度の確立
質問 民間委託した行政サービスの安全性や質の確保が重要だ。事業者の勤務態度やサービスを、区としても、きちんと管理せよ。
政策経営部長 事業報告書や利用者アンケートなどで評価している。

児童虐待対策の体制強化
質問 増え続ける児童虐待に十分対応できる体制の整備が急務だ。予防から緊急介入まで一貫して支援できるように児童相談所と連携し、虐待のないまち世田谷を目指せ。
子ども部長 都との役割分担を踏まえ、予防や再発防止に取り組む。

柳澤大臣発言への区長の見解
質問 女性は子どもを産む機械と柳澤厚生労働大臣の発言は、多くの女性を傷つけただけではなく、男女共同参画社会への無理解を露呈した。区長の見解を示せ。
区長 大臣の発言については不適切な発言だったと思っている。

区の特徴を生かした教育活動
質問 ゆとり教育の見直しなどで国の議論が混迷しようとも、現場を担う自治体には特色ある教育活動が求められる。区の教育施策は、どこに軸足を置いて推進するのか。
教育長 地域運営学校と日本語教

育特区、小中一貫教育を柱とした。ユニバーサルデザイン条例の施行

制定予定のユニバーサルデザイン条例の施行

質問 制定予定のユニバーサルデザイン条例は、施設のバリアフリー化の面が強い。窓口対応や情報提供のあり方など、ソフト面のバリア解消にも取り組め。
助役 ハード、ソフト両面のバランスの上で総合的に推進する。

在宅介護支援体制の充実
質問 療養病床の再編で施設から自宅に戻る高齢者が増え、家族の重い介護負担が心配される。ケアハウスの整備や福祉と医療の連携など、支援体制の充実を図れ。
保健福祉部長 19年度から居住系サービスの基盤の拡充に着手する。

廃プラスチック焼却情報の開示
質問 19年度に廃プラスチック焼却の実証確認が当区でも行われる。実施に際しては、安全性に関する情報を徹底して開示するなど、区民の不安を解消する責任を果たせ。
清掃・リサイクル部長 清掃一組と連携し、きめ細かな情報提供を行う。

せたがや政策会議

小泉 たま子議員

世田谷の目指す方向の明示

質問 当区は政令市並みの人口であるが、人口規模に見合う権限や機能が認められていない。権限獲得に向けた区の姿勢が区民にきちんと伝わるように工夫せよ。
区長 区民にわかりやすいメッセージの発信を十分心がけていく。

都区制度改革に向けた区長の決意
質問 世田谷から東京を変えると言うのなら、区長は区独自の地域行政制度で培ってきた地域運営のあり方を、23区内にとどまらず、広く提言すべきだ。決意を示せ。
区長 区長会から都に提案するなど、さらに主体的に取り組む。

行政評価の手法の見直し
質問 政策の評価は、区長が組織に権限と責任を与え、成果を区民に明らかにして議会で検証する仕組みで十分だ。事務を複雑にさせ

る現在の行政評価の手法を見直せ。

政策経営部長 区民にわかりやすい評価となるよう取り組んでいく。

シンクタンク設置への懸念
質問 区が全国に誇ってきた施策は、現場の職員が組み立ててきたものだ。外部人材をトップとするシンクタンクの設置は、職員の能力を軽視するものではないか。
政策経営部長 官民協働の自治体経営の推進を目指した取り組みだ。

職員の現場感覚の醸成
質問 区長は現場主義と言いつつ、区政の第一線であり職員の育成機関でもある出張所の職員数を減らした。今後、どのように職員に現場感覚を持たせるのか。
助役 区民の目線に立った現場主義の徹底により意識改革を進める。

同様のサービスを行う施設の統合
質問 同様のサービスは同じ場所を提供し、区民の利便性を高めるべきだ。まちづくり出張所、あんしんすこやかセンター、社会福祉協議会を各地区1カ所に統合せよ。
地域政策部長 物理的な面などから、一体化は厳しい状況だ。

高齢者が尊重されるまちづくり
質問 高齢者こそ人生の豊かさや幸せを実感すべきであり、寂しく生きることがあってはならない。区は、高齢者が尊重されるまちづくりに全力で取り組むと宣言せよ。
区長 さまざまな施策の推進により、今後も全力で取り組む。

元気高齢者対策の推進
質問 元気高齢者対策は福祉部門から切り離して考えるべきだ。専門部署を設置し、高齢者が生き生きと暮らせる施策を進めよ。
介護予防部長 関係部署が横断的に連携して施策を推進する。

土木業務の重要性の周知
質問 水害などから区民の生命と財産を守る土木業務は福祉そのものだ。本庁集約で見えにくくなつた土木業務の地域での重要性を区民にわかりやすく伝えよ。
土木事業部長 より住民にわかりやすくPRできるように努力する。

代表質問、一般質問の様子は
ホームページでごらんいただけます。
http://www.city.setagaya.tokyo.jp/kugikai/
議会中継をクリック!

3月1日及び2日の本会議で、5名の議員がそれぞれの会派を代表して質問を行いました。その一部を要約してお伝えします。

日本共産党世田谷区議員

中里 光夫議員

熊本区長の政治姿勢を問う

質問 区民に負担を押しつけた熊本区政は、住民のくらしを守る観点で欠けている。熊本区長は、区政のどこに力を入れるのか。

区長 安全安心を基礎に、区民の目線でもっと新たな政策をつくる。福祉切り捨てで区民への影響は

質問 区長は100億円の行革の成果を上げたというが、中身は区民サービスと福祉の切り捨てだ。区民にどのような影響があったのか、区長の認識を示せ。

助役 行革で生み出した財源を使い、区民ニーズにこたえている。

高齢者の非課税措置を復活せよ
質問 住民税の高齢者の非課税措置が廃止され、大幅な負担増が高齢者の暮らしを襲っている。高齢者を守るため、区税条例を改正して区独自に非課税措置を復活せよ。

財務部長 地方税法の規定に反するおそれがあるものと考えている。

障害者控除対象認定書の送付を
質問 軽度の要介護者も障害者控除の対象となる可能性があるにもかかわらず、制度が区民に十分知られていない。控除の対象となるすべての人に認定書を送付せよ。

保健福祉部長 認定書の一律の交付は困難だが今後も周知に努める。

認可保育園のさらなる増設を
質問 区の保育園待機児童数は全国ワースト16位と最悪だ。認可園の増設が発表されたが不十分。子ども計画を見直し、さらに増設せよ。

子ども部長 多様な手法で保育サービス待機児童の解消などに努める。

区立校の耐震化
質問 学校耐震化は5割近くが未完了。砦庁舎建てかえより最優先で行うべきだ。半年前の計画から既に遅れている。全ての学校の耐震診断結果と工事計画を公開せよ。

教育次長 計画的に整備を図り、21年度末に耐震化を完了する。

一般質問

3月2日及び5日の本会議では、29名の議員が区政をめぐる諸課題について質問を行いました。その一部を要約してお伝えします。

平山 八郎議員(自 民)

道路行政の一層の推進

質問 道路整備は、都市基盤という物理的な点だけではなく、安全で安心なまちづくりや福祉的な環境の整備という点からも生活の根幹にかかわる重要な課題だ。火災発生時に緊急車両が通れず大切な命を失うなどということもなくすためにも、道路整備を進めよ。

答弁 区民の生命と財産を守るため、ハード、ソフトを含めた安全安心なまちづくりにさらに努める。

恵泉裏通りの早期貫通
質問 恵泉裏通りの整備は計画されてから44年が経過したが、いまだに完成を見ていない。この間投資した何十億もの税金の効果が具体化するまで、立ちふさがる課題に真剣に取り組み、正しいと信じて持つて、早期貫通を目指せ。

答弁 最重要整備路線に位置づけ、不退転の覚悟で取り組み、一日も早い完成に向けて全力を尽くす。

すがや やすこ議員(区民連)
認可保育園の入園情報の充実
質問 認可保育園に入園を希望しながら待機状態にある家庭への情報を充実すべきだ。待機順位など、他の保育サービスを選択する材料となるきめ細かい情報を公開せよ。

答弁 施設の案内や空き情報の提供など、きめ細かな対応に努める。

学校選択制の採用
質問 区は学校選択制をとらないとする一方で、指定校変更で学校の選択を認めており一貫性に欠ける。正しい情報のもとで保護者が判断できる学校選択制を採用せよ。

答弁 今後とも地域が誇れる開かれた学校を目指していく。

教育格差の解消
質問 親の所得格差の広がりが子どもの学力の差に現れている。塾などに頼らずに学校で学力を身につけられるよう、土曜日や放課後を活用した補習授業を行え。

答弁 放課後や夏季休業中の補習授業の設定などに取り組んでいる。

飯塚 和道議員(公 明)

がん予防に向けた生活習慣の改善

質問 がんの罹患率を低下させるには、生活習慣の改善が大切だ。喫煙、食事、運動などの生活習慣が健康に及ぼす影響を区民が正しく理解できるよう取り組み。

答弁 禁煙支援などの生活習慣病対策を通じ、がん予防に努める。

がん検診の受診率の向上
質問 がんによる死亡率を下げるため、無症状であることが多い初期段階に検診で見出し、治療することが重要だ。がんに関する情報提供に努め、受診率を高めよ。

答弁 国の指針に基づき、実施目標を定めて検診事業に取り組む。

高額療養費制度の改正内容の周知
質問 高額療養費の入院時立てかえ方式が廃止され、患者は自己負担額を超える医療費を窓口で支払う必要がなくなる。大幅な負担軽減になることを周知徹底せよ。

答弁 ホームページ、区報、国保のしおりなどで積極的に周知する。

下条 忠雄議員(改革派)

入札制度改革委員設置は責任逃れだ

質問 区長は区発注工事の高落札率に知らぬ存ぜぬを決め込んでいたが突然検討委を設置した。がトップが決断すれば明日にでもできる。区長の責任逃れではないか。

答弁 外部委員による多角的な検討を加え、改革案を立案していく。

砦支所の本体工事の入札は？
質問 砦支所の本体工事の落札率は98%。一般競争入札と言うが、制限を設けて区外業者を排除した6共同企業体の指名競争入札。区長に近い業者に誘導したのでは。

答弁 指摘のような区内事業者に限定した制限は付していない。

40万納税者の立場で入札改革せよ
質問 世田谷区の方針である区内業者育成は競争入札と相入れない。他県で談合汚職が起き、時代錯誤だ。100万円以上の工事は制限をつけない一般競争入札を実施せよ。

答弁 入札制度改革検討委員会での検討を踏まえ競争性向上を図る。

高橋 昭彦議員(公 明)

教員へのメンタルヘルスサポート

質問 子どもの指導や保護者対応でストレスを抱える教員が急増しており、対策が急務だ。心の健康回復に向け、区立校に専門医を派遣し、教員対象の相談事業を行え。

答弁 都に働きかけるとともに、専門医の活用などを検討する。

世田谷芸術月間の意義
質問 区はコンサートなど、文化芸術に関する催しを町中で行う世田谷芸術月間を開催する予定だ。一過性の事業に終わらせないよう、視点や目的を明確にして取り組み。

答弁 まちのにぎわいづくりの起爆剤となることを目指していく。

区立公園へのドッグラン設置
質問 人と動物との共生の実現に向け、具体的な取り組みを進めるべきだ。飼い主のルール徹底など、課題の整理をさらに進め、区立公園にドッグランを設置せよ。

答弁 利用時間や場所を限定し、区民団体による試行を支援する。

下山 芳男議員(自 民)

道義教育の進め方

質問 インターネットなどの普及に伴い、子どもが犯罪の加害者となる例が増えている。区は道義教育では、子どもに善悪の判断能力を身につけさせることを重視せよ。

答弁 子ども自身が考え、行動し、振り返れる取り組みを進める。

学力・学習状況調査結果の活用
質問 国は小学6年と中学3年を対象に全国学力・学習状況調査を行う予定だ。調査結果は、学校の序列化につながるような取り扱いに留意し、今後の教育に生かせよ。

答弁 指導方法の改善につなげることで質の高い授業を実現したい。

児童療育相談の待機解消
質問 子どもの発達障害の相談が増え、専門相談を受けられるまで約3カ月かかると聞く。保護者の不安を和らげるためにも、相談体制を強化し、待機を解消せよ。

答弁 待機状態の早期解消に向け、障害児の療育相談などに取り組む。

道路と店舗の段差を解消したユニバーサルデザインの道(松陰神社通り商店街)



大庭 正明議員(政策)

世田谷のユニバーサルデザイン

質問 全部の人が利用しやすい生活環境と、個性や文化との両立は本来困難だ。ユニバーサルデザインの導入に当たっては、世田谷の個性を損なわないよう取り組み。

答弁 評価、点検を段階的かつ継続的に実施し、結果を反映させる。

ユニバーサルデザインの推進体制
質問 ユニバーサルデザインの考案はすべての領域に関係するが、区の施策はハード面の整備に集中している。福祉の観点も取り入れるなど、全庁横断的に取り組み。

答弁 すべての領域にまたがる継続的な推進委員会を設置して臨む。

義務教育での日本語教育のあり方
質問 日本人としての意識を育てるには、日本語への理解を深めることが重要だ。日本語の特性や文化的成り立ちを義務教育の中に位置づけて、しっかりと教えよ。

答弁 日本語の特質に触れるなど、教科日本語の内容を充実していく。

畠山 晋一議員(自 民)

多世代家族を支援する住宅政策

質問 核家族化などによる人のつながりの希薄化が昨今の陰惨な事件の遠因となっている。将来を見据え、多世代の家族が容易に行き来できるような住宅政策を進めよ。

答弁 世代間の交流を促す住環境の整備に取り組む。

災害時の避難所の周知
質問 災害時における一時集合所や広域避難場所、学校避難所の役割や場所が区民に十分知られていない。防災区民組織などと連携し、安全に避難できるように啓発せよ。

答弁 防災訓練などの場を活用して積極的に周知を図る。

防災区民組織への支援の強化
質問 大地震などの際は、防災区民組織が倒壊家屋からの救助などを行う必要が生じる。チェーンソーなど、扱い方によっては危険を伴う防災資機材の供与は可能か。

答弁 個々の組織の申請に基づき、基準の範囲内で供与する。

問

質

一 般

一

佐藤 弘人議員(公明)

水環境の保全と創出その10まとめ

質問 失われた自然や水辺の潤いを回復すべきだ。植物や生き物を宿すための水を育てる育水の観点で、河川を面的にとらえた流域型まちづくりを住民参加で計画せよ。

答弁 清流再生へのプロジェクトの中で検討していく。

廃棄物処理事業者への支援

質問 廃棄物の削減、再使用、再生利用の総合的かつ広域的な推進には、民間活力の導入が不可欠だ。民間処理施設の運営に国の交付金を活用するなど多面的に支援せよ。

答弁 法の趣旨を踏まえ、廃棄物の適正な処理に取り組む。

食料自給率向上への取り組み

質問 農家と消費者の信頼関係を構築し、区民共生型の都市農業を推進することが食料自給率の向上につながる。食育や地産地消の取り組みを全区的に展開せよ。

答弁 体験農園、学校給食での区内産農産物の活用などを進める。

上川 あや議員(虹)

喫煙に対する区の基本姿勢

質問 区は区民に禁煙や分煙を呼びかけておきながら、税増増をねらって、たばこの消費拡大に多額の子算を計上している。喫煙の抑制と促進のどちらが大切なのか。

答弁 喫煙者の減少や受動喫煙防止に取り組むべきと考えている。

民間施設の禁煙、分煙奨励策

質問 禁煙や分煙を進める民間施設を認定する制度の導入を以前に議会でも提案したが、いまだに進展の兆しが見えない。区は本気で取り組む気があるのか。

答弁 飲食店を中心とした登録制度を19年度度早々にも開始したい。

区の要約筆記者養成事業の継続

質問 話し言葉や文字で伝える要約筆記者の養成事業は19年度から都が行うが、小規模で不十分だ。聴覚障害者のニーズにこたえるため、区独自の養成事業を継続せよ。

答弁 19年度は追加講習を行い、それ以降については今後検討する。

岸 武志議員(共産)

成城南口タクシー乗り場の存続

質問 地域に定着している成城学園前駅南口のタクシー乗り場を存続すべきだ。十分な安全対策を講じた上で引き続き乗降スペースを確保し、区民の利便性を保障せよ。

答弁 歩行者の安全を最優先に、関係機関と対応策を検討している。

コミュニティバス路線の延伸

質問 交通不便地域である喜多見の住民にとって、路線バスの利便性の向上は長年の願いだ。喜多見・宇奈根地区コミュニティバスを喜多見側にさらに延伸せよ。

答弁 利用状況などを見極め、地域の要望にこたえるよう努める。

ガイドヘルプサービスの充実

質問 障害者の外出を支援するガイドヘルプサービスを充実すべきだ。家族の入院など不測の事態にも十分対応できるように、要綱を改正し、利用上限時間を引き上げよ。

答弁 適切にサービスを提供できるように、円滑な事業運営に努める。

桜井 純子議員(区民連)

安全マップの有効活用

質問 子どもの目線で危険箇所を指摘した学校ごとの安全マップを有効に活用すべきだ。関係部署の連携のもと、安全マップに示された危険箇所を検証し、解消せよ。

答弁 関係部署が情報を共有し、子どもの安全に柔軟に対応する。

保育サービステキニの状況把握

質問 区は保育サービス受け入れ枠を100名拡大するが、単なる数字合わせとなつてはならない。潜在的なニーズにもこたえられるよう、待機児の状況を正しく把握せよ。

答弁 保護者の就業や生活の実態をも把握する必要があると考える。

認証保育所の質の確保

質問 拡大予定の保育サービスには、認可保育園の基準を緩和した認証保育所が含まれている。外部評価の結果を公表させるなど、認証保育所の質の確保に責任を持って。

答弁 利用者アンケートに基づく改善などの見直しを支援している。

山内 彰議員(自民)

北沢川緑道への文学碑の建立

質問 多くの作家が創作活動をした北沢川緑道近辺の歴史を後世に伝えるべきだ。緑道整備事業の区切りを機に、北沢川文化遺産保存の会の協力を得て文学碑を建てよ。

答弁 資料を次世代へ残すことは教育上も必要だと認識している。

北沢川文化遺産の代沢小への展示

質問 坂口安吾など、北沢川ゆかりの文学者に関する貴重な資料を広く区民に公開すべきだ。北沢川周辺の文学遺産の中心地にある代沢小の教室を活用して展示せよ。

答弁 提案を踏まえ、今後、展示場所の設置を検討していきたい。

北沢川文学の案内板の駅への設置

質問 北沢川周辺の文学の歴史を多くの人に知ってもらうことが大切だ。北沢川の文学にゆかりのある場所を表示した案内板を周辺の駅に設置できるように働きかけよ。

答弁 保存会からの要望があれば、電鉄各社に伝えていきたい。

栗林 のり子議員(公明)

女性健康相談窓口の設置

質問 若い世代から高齢者まで、女性が健康相談やメンタルケアをワンストップで受けられる場が必要だ。改築後の砧支所に、女性の健康に関する相談窓口を設置せよ。

答弁 地域の施設を活用し、身近な場所での女性の健康支援を進める。

感動教育の一層の推進

質問 子どもがさまざまな体験を通じて感動することが、命の尊厳の理解や思いやりの心の醸成につながる。動物飼育や職場体験など、学校での感動教育を一層進めよ。

答弁 感動体験を生かし、子どもが意欲的に学べるよう努める。

二子玉川地区への駐輪場の増設

質問 二子玉川地区では、自転車駐輪場の整備が不十分のまま放置自転車をどんどん撤去していると聞く。区の空き地を活用するなど、必要台数分の駐輪場を確保せよ。

答弁 既存施設の活用や運営の工夫などで駐輪台数の拡大に努める。

青空 こうじ議員(無所属)

梅まつりを通じた商店街の活性化

質問 区内外から多くの人が訪れる羽根木公園の梅まつりを観光資源として活用すべきだ。大道芸や地元芸能人と連携した催しを同時期に行い、商店街を活性化せよ。

答弁 近隣商店街の活性化に寄与するよう実行委員会に働きかける。

高校と地域との連携

質問 区内には地域の行事に積極的に参加している高校生がたくさんいることを知るべきだ。高校生が一層参加しやすくなるよう、区は高校と地域とのパイプ役を担え。

答弁 地域のイベントを担う実行委員会などに連携を働きかける。

ITマイスター認定教員の活用

質問 児童生徒にわかりやすい授業を行うため、ITを一層活用すべきだ。現在18名いるITマイスター認定教員を学校現場でより生かせるよう、計画的に増員せよ。

答弁 21年度には各校1名の配置を計画している。

稲垣 まさよし議員(区民連)

教員人事権移譲の実現

質問 教育問題の抜本的解決には、区の教育方針を理解する教員が教育に当たることが大切だ。区が育てた優秀な教員の転出を防ぐため、都に教員人事権の移譲を求めよ。

答弁 早期の人事権移譲の実現に向け、今後も国や都に働きかける。

学校施設の借地料などの廃止

質問 小中学校は義務教育施設であるにもかかわらず、国が国有地に建つ校舎に借地料や増改築承諾料を課す制度は理不尽だ。廃止に向け、国に毅然とした態度で臨め。

答弁 全面廃止に向け、全国市長会を通じて要望している。

障害者グループホームの増設策

質問 障害者グループホームの増設が必要不可欠な課題となつている。民間住宅の借り上げやNPOなどへの建設費用の無利子融資など、具体的な方策を講じよ。

答弁 補助内容の拡大や地域との調整を進め、事業者を支援する。



歩きやすい歩道整備が望まれる松沢病院外周

川上 和彦議員(自民)

いじめ問題への真摯な対応

質問 いじめによる自殺が起きた学校や教育委員会の発言には、問題意識のなさがあまりにも目立つ。当区では、いじめの現状を真摯に受けとめ、問題解決に当たれ。

答弁 全力を挙げていじめを絶対に許さないと姿勢を徹底する。

松沢病院改築に伴う周辺整備

質問 都立松沢病院の改築に合わせ、外周歩道や交差点を改善すべきだ。交通環境改善への地元の強い要望を踏まえ、改築が地域への貢献につながるよう都に求めよ。

答弁 周辺環境の改善を果たすよう、引き続き都に強く要請する。

新元気をさせ商店街事業の充実

質問 新元気をさせ商店街事業が商店街の活性化に果たす役割は大きい。活力ある商店街の育成に向け、イベント補助制限の緩和など事業の充実を都に働きかけよ。

答弁 実態に即した効果的な支援ができるよう、都と協議していく。

大場 康宣議員(自民)

ウォーキングコース情報の提供

質問 自分が住む地域のことを知るには、町中の散歩が有効だ。団塊世代が散歩を通じて地域デビューできるよう、緑道などのウォーキングコースの情報を提供せよ。

答弁 地域での既存の取り組みを踏まえ効果的な情報発信に努める。

ウォーキングを楽しむ工夫

質問 団塊世代がウォーキングを楽しむ工夫が必要だ。季節の野菜が買え、農家との交流も生まれる農産物直売所とウォーキングコースの情報をあわせてPRせよ。

答弁 ウォーキングにも役立つよう、直売所マップを改善する。

区内情報誌の発行支援

質問 区内の農業や観光スポットの情報提供が団塊世代のウォーキング意欲の促進につながる。区は、歩くせたがや21のような地域情報誌の作成に積極的に関与せよ。

答弁 民間が行う区の魅力発信の取り組みの活性化を検討する。

板井 斎議員(公明)

区施設や区有地の有効活用

質問 年間200億円に及ぶ区施設などの運営管理経費の節減が、今後の大きな課題だ。整理統合や複合化を積極的に進め、区の施策全体を見渡した戦略的な活用を努めよ。

答弁 施設の多角的な活用を図るなど、区民ニーズに応じていく。

スポーツ施設の拡充

質問 区民が気軽にスポーツに親しむための施設が不足しており、特に夜間利用できる屋外施設の充実を望む声は切実だ。区立校の夜間開放など、引き続き努力せよ。

答弁 校庭の有効利用の観点から、利用実態を調査する。

自然エネルギー利用の普及

質問 自然エネルギーの利用は、温暖化対策だけでなく防災上の観点からも重要だ。公園や学校など、災害時に拠点となる施設への太陽エネルギー灯の設置を進めよ。

答弁 新開発の太陽エネルギー灯設置の実験も踏まえて検討する。

一 般 質 問

山木 きよ子議員（区民連）

竹村 津絵議員（区民連）

あべ 力也議員（区民連）

原田 正幸議員（自 民）

新川 勝二議員（自 民）

桜井 征夫議員（区民連）

グループホームの緊急整備

質問 認知症高齢者を介護する家族の負担軽減のため、グループホームの一層の整備が急務だ。現在よりさらに踏み込んだ手法で民間事業者の誘導を推進せよ。

答弁 公有地や国の交付金を活用するなど、多様な手法で整備する。

地域から進める地球温暖化対策

質問 地球温暖化対策では、日常生活の中で環境配慮への努力を重ねることが重要だ。CO₂削減に有効な太陽光発電設備を家庭に普及させるなど、省エネを一層推進せよ。

答弁 太陽光発電を初め、新エネルギーの情報を区民へ提供する。

雨水浸透ますのさらなる普及

質問 CO₂の削減に重要な緑の育成には、雨水を地面に浸透させることが大切だ。雨水浸透ますの一層の普及に向け、住宅や公共施設への設置の目標値を定めて取り組み。

答弁 区や民間施設への設置を一層進め、目標値の設定も検討する。

竹村 津絵議員（区民連）

あべ 力也議員（区民連）

原田 正幸議員（自 民）

新川 勝二議員（自 民）

桜井 征夫議員（区民連）

一 般

鈴木 昌二議員（自 民）

区民の文化活動を支える環境整備

質問 世田谷の文化の特色は、区民活動の多様性と積極性だ。文化財団の施設をより使いやすくするなど、主役である区民の文化活動を支えるための環境整備に努めよ。

答弁 文化・芸術振興計画に人材活用の仕組みなどを盛り込む。

スポーツリーダーバンクの仕組み

質問 区民の多様なスポーツ活動を応援するため、地域の指導者の育成や活用を図るべきだ。区が検討しているスポーツリーダーバンクの仕組みや運営方針を示せ。

答弁 学校や地域の要請に応じた適切な指導者を紹介する制度とする。

スポーツ活動団体の場の確保

質問 区民が気軽に安心してスポーツを続けるには、身近で活動できる場の確保が欠かせない。地域のスポーツ活動団体が学校施設を継続的に使えるように工夫せよ。

答弁 学校施設開放の優先使用を具体的に検討している。



教育相談機能が充実します（教育センター）

質問 区が資源化ルートを確認していない洗剤ボトルなどのプラスチックも可能な限りリサイクルすべきだ。環境活動に取り組み区民と連携し、回収の仕組みをつくれ。

質問 住民と開発事業者との建築紛争を避けるには、土地利用の構想的公開と事前協議の義務づけが必要だ。先進事例を研究し、紛争防止に向けた条例を整備せよ。

答弁 時代に合ったルールや方法を検討し、必要に応じて見直す。

教科日本語の取り組み方針

質問 子どものコミュニケーション能力の低下がはじめなどにつながる。低学年の教科日本語では、日本語を意思疎通の手段として使えるよう基礎的学習に力を注ぐ。

答弁 相手や場面に応じた言葉遣いについて考える学習などを行う。

大規模開発時の区民との事前協議

質問 区内警察との連絡会において提案していききたい。

質問 区内警察との連絡会において提案していききたい。

質問 区内警察との連絡会において提案していききたい。

質問 区の子育て支援策は評価するが、合計特殊出生率は23区の中でも低い。少子化解消に向けた明確な姿勢を内外に示すためにも、出産費用の無料化を実現せよ。

答弁 国の制度改正の流れの中で、今後の課題とする。

質問 区内の子育て支援策は評価するが、合計特殊出生率は23区の中でも低い。少子化解消に向けた明確な姿勢を内外に示すためにも、出産費用の無料化を実現せよ。

答弁 国の制度改正の流れの中で、今後の課題とする。

質問 区内の子育て支援策は評価するが、合計特殊出生率は23区の中でも低い。少子化解消に向けた明確な姿勢を内外に示すためにも、出産費用の無料化を実現せよ。

答弁 国の制度改正の流れの中で、今後の課題とする。

質問 区内の子育て支援策は評価するが、合計特殊出生率は23区の中でも低い。少子化解消に向けた明確な姿勢を内外に示すためにも、出産費用の無料化を実現せよ。

答弁 国の制度改正の流れの中で、今後の課題とする。



ランチルームでの給食の様子（経堂小）

本文中で使用している省略表記

- 地域政策部長 地域情報政策担当
- 介護予防部長 介護予防担当部長
- 保健所長 世田谷保健所長
- みどりともみどり部長 政策担当部長
- 交通政策部長 交通政策担当部長
- 土木事業部長 土木事業担当部長
- 支所 総合支所
- 清掃一組 東京二十三区
- 都区財調制度 都区財政調整制度

会派等の意見

予算委員会での質疑・要望や、本会議で表明された19年度予算に対する各会派等の意見の一部を要約してお伝えします。

本会議での意見表明者

自由民主党世田谷区議団：六戸教男議員
公明党世田谷区議団：増田信之議員
民主党・生活者ネット・社民党
世田谷区民連合：桜井征夫議員
せたがや政策会議：大庭正明議員
日本共産党世田谷区議団：里吉ゆみ議員
世田谷改革派：下条忠雄議員
無党派市議員：木下泰之議員
レインボー世田谷：上川あや議員
無所属：青空こうじ議員

行財政改革の歩みをとめず 区政を一層発展させよ

自由民主党世田谷区議団

(賛成意見)

この4年間、我が党は官から民への視点で大胆な行財政改革の推進を一貫して主張してきた。この改革は、厳しい財政状況の中で区の将来を見据えた新たな課題に対応する財源確保と、質の高いサービス実現の大前提となるものだ。

熊本区政は、一部の区立保育園民営化や区立幼稚園の認定こども園への機能転換、職員定数の削減、不要不急の事務事業の見直しなどを着実に進め、100億円を超える経費を削減し、その財源を我が党が訴えてきた安全安心への取り組み、子育て支援や教育、環境対策の充実に重点的に投入してきた。さらに、300億円もの借金を減らし、18年度最終補正予算では、学校改革などに備えた100億円を超える基金の積み増しで基金全体が500億円を超えたことは改革の成果である。財源がいくらでもわき出るがごとく区民に耳ざわりのいいことだけを主張する会派もあるが、夕張市を教訓に、たじろぐことなく改革を推進せよ。以下、最重要課題に掲げられる具体的施策を述べる。

メラ設置の促進など警察との連携を密にし、二重三重の防犯対策を準備せよ。さらに、高齢者をねらう悪徳商法への対策も講じよ。

震災対策では、建築基準法に適合していない住宅への無料耐震診断の実施や、家具転倒防止器具取付事業における300件分の予算計上を評価する。区民の命に直接影響する建物の倒壊や家具転倒の防止策に今後も積極的に取り組め。

スポーツなどを通じた健康維持や健康づくりへの取り組みは、介護予防や生活習慣病対策の面でも効果がある。医療費抑制の観点からも、84万区民が身近な場所でも運動できるよう、各地域にスポーツ施設や運動場を整備せよ。また、国が廃止を予定している厚生年金スポーツセンターを区のスポーツ施設として活用できるように、国に強く働きかけよ。さらに、既存施設の活用の観点から、世田谷公園野球場の人工芝化の実現は歓迎するが、区民に身近な小中学校の校庭の夜間利用を促す夜間照明の設置が見送られたことは残念だ。計画的な設置に向けて一層努力せよ。

少子高齢社会が進展する中で、我が党が充実を求めてきた子育て支援事業は、子ども計画の前倒しなどにより全国に誇れる水準となった。区はこれにおおごることなく、区民ニーズを見定めながら、公平性の観点も重視し事業を展開せよ。高齢者施策において、新たな区独自策として有料老人ホームを活用したショートステイとケアハウスの整備を予算化したことは、介護の必要な高齢者を抱える世帯や老老介護世帯にとって朗報だ。21年度までに各100床を確保する計画だが、状況を見きわめながら増床も念頭に積極的に取り組め。

地球温暖化対策は、21世紀最大の課題であり、全庁的な取り組みが必要だ。区民一人ひとりが問題意識を持って取り組めるよう区が率先して範を示せ。19年度予算に示されたエコドライブの推進、エ



両親学級での沐浴実習の様子

地方自治体の役割を認識し 財政の自立と災害対策を推進せよ

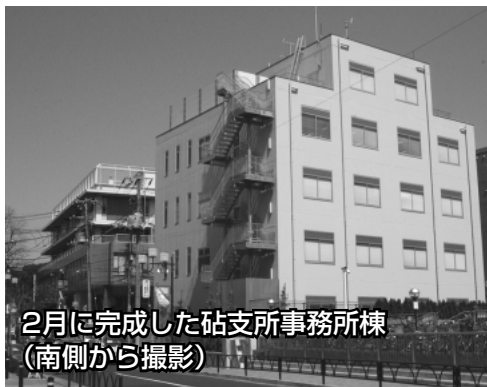
せたがや政策会議

(賛成意見)

夕張市が財政破綻するなど、地方自治体の財政は危機的な状況にある。区が経営に失敗すれば直接影響を受けるのは区民であり、財政の自立と健全な運営が非常に大切だ。借金の縮減を基本姿勢とし、予算編成は区民要望にかなうものであり、是とする。また、真に必要な施策にこそ予算を配分するという観点から、子育て支援策への重点的な配分に賛成する。

熊本区政が安全安心を基軸として施策を進める中、各地で地震などの自然災害が発生した。碓支所を最新の建築技術で改築することは、改修を繰り返すよりも税金の有効活用となる賢明な判断だ。区施設の耐震化は目先の費用にとらわれず将来を見据えて検討せよ。

震災対策では、震災時に地域が孤立して被害が増大しないよう、被災や地域の拠点整備に取り組むことが重要だ。出張所改革後の見直しを震災対策の一環として位置づけよ。地域の安全確保には地域コミュニティが重要な役割を果たす。出張所のあり方の検討や地域住民と行政が協力し合える仕組みづくりに期待する。



2月に完成した碓支所事務所棟 (南側から撮影)



予算特別委員会 採決

行政の長として自覚が足りない 世田谷改革派

(一般会計には反対、その他の会計には賛成する意見)

防犯対策に190億円、が防犯は警察、区民サービスに徹せよ。指定校変更は事実上の学校選択制、二枚舌を使うな。日本語特区導入の混乱は責任問題、人事を含め改革せよ。中3までの医療費バラマキは衆愚政治。違法の商店街振興組合と生協の選挙運動は阻止せよ。

強制的な土建区政から脱却せよ

無党派市議員 (反対意見)

区長は下北沢の地区計画策定での賛成意見誘導を潔く認め区民に謝罪せよ。利用可能な小田急線事業跡地は2万7000㎡もある。みどり率33%目標達成のためにも、地下化後地上部分は緑道とせよ。ユニバーサルデザイン条例制定を機に、少数意見も尊重の区政に転換せよ。

想像力を働かせて区政を改革せよ

レインボー世田谷 (賛成意見)

聞く耳を持つ区長の姿勢を示すため、待つ広報広聴から出向く広報広聴に転換せよ。縦割りを排し、整合性ある施策を展開せよ。改善すると公言したことは確実に改めよ。一人ひとりの職員が想像力を働かせて区民の多様性に配慮せよ。全職員のさらなる意識改革を望む。

すべての区民の信託にたいえよ

無所属 (賛成意見)

子どもが健やかに育つ健康的で笑いの絶えないまちを目指し、住民参加による区政を大胆にかつ笑顔で進めよ。子どもは大人の背中を見て育つ。真に明るい社会をつくるため、まず、幹部職員みずからが発想を転換し、全庁を挙げて大人に対する意識啓発に取り組み

予算特別委員会の質疑の様子は
ホームページでごらんいただけます。
<http://www.city.setagaya.tokyo.jp/kugikai/>
【議会中継】をクリック！

19年度予算

84万区民の生命と財産を守り
安全安心の世田谷を築け

公明党世田谷区議団

(賛成意見)

19年度予算は、熊本区長1期目最後の予算編成であると同時に4年間の総括ともなる節目の予算だ。また、2期目を指す区長の行政姿勢があらわれる予算でもある。区長はこの4年間で、区民の生命と財産を守り、84万区民の誰もが安心して住み続けられる世田谷を目指してきた。そしてこの安全安心への取り組みは確かな結果を残した。また、よどみしがらみにとらわれない行財政改革、教育、環境対策、子育て支援などに取り組んだことも評価する。

19年度予算においても、区は重点分野として安全安心施策、子育て支援、環境対策、みどり施策、区民の健康づくりと元気高齢者への支援などの喫緊の課題に取り組み姿勢を示した。我が党が力を入れていく施策と符合するものであり、高く評価する。

19年度予算額は、一般会計が2264億円、特別会計を含めると初めて4000億円を超えた。しかし、景気回復基調の中で税収が増えても、決して油断できる状況ではない。区は今後も行財政改革を継続し、中長期を展望した、めり張りのある予算編成を行うことを要望する。

以下、今後の世田谷を展望した上で、特に大切な課題について意見を述べる。

我が党が以前から取り組んできた子育て支援策を区は一層推進すべきだ。区長は子ども医療費の無料化を所得制限なしで中学3年まで拡充し、全国に波及させた。まさに世田谷が東京を変え、日本を変える先駆的取り組みだ。しかし、子育て支援や少子化対策は金銭的な援助だけで完結するものではない、

く、育児と仕事を両立できる環境づくりも不可欠だ。区内には保育園に入園できない乳幼児が多いという現状を踏まえ、区立保育園の民営化、認証保育所や保育室の拡充などによる多面的な受け皿を用意し、希望者全員が保育サービスを受けられる体制をつくれ。

都民の最大の困りごとは交通渋滞だ。区においても、幹線道路の慢性的渋滞だけではなく、裏路地の生活道路まで入り込む通過車両が、通学路の危険性や排気ガスによる空気汚染を広げ、区民の迷惑となっている。交通渋滞のないまちづくりと環境問題の解決を目指す。区は都と協力して1日も早く外環道の建設を実現せよ。

今後退職する団塊世代を地域社会で迎え入れ、その力を活用すべきだ。元気で能力あふれる多くの人材の活躍が、地域経済の活性化や元気高齢者の増加につながるよう、団塊世代を意識したイベントを、具体的な取り組みにつなげよ。

産業振興と商店街活性化をさらに進めるべきだ。区はこれまで、ショッピングプロムナードの整備や区内共通商品券の導入、新時代の産業振興を見据えた財団の設立などに取り組んできた。今後は全国や世界各国から集客することも視野に入れ、世田谷まちのステーションの整備、まちづくり出張所を拠点とした朝市やイベントの企画などに取り組み。また、観光協会の設置も積極的に検討せよ。

区民との協働の姿勢を取り戻し
区政への信頼を獲得せよ

民主党・生活者ネット・社民党
世田谷区民連合

(一般会計と国保会計と介護会計には反対、その他の会計には賛成する意見)

経済効率主義や競争至上主義といった民間企業経営の論理に基づく区政改革を進めたことにより、区は区民との協働の姿勢を失い、区民の理解と信頼を得る努力を怠った。また、区政運営に最も大切な区民参加を形骸化させ、区民本位であるべき区政を明らかに後退させた。企業の論理は必ずしも区民の目線と同じではないことを区は肝に銘じ、企業的手法を取り入れさえすれば改革を達成できるとする考え方を改めよ。

19年度予算案では、都区財調制度の区の配分率や都支出金などの増加が区の事業予算に大きな影響を与えている。都への依存体質の抜本的改善には、都区財調制度の改革が必要であることを改めて浮き彫りにした。これまで区長は、都区制度問題の一括解決を目指す」と表明してきたが、一向に進展が見られない現状では、区長の責任は重大と言わざるを得ない。

国を初め、全国の自治体で少子化対策が進められている。区も子ども施策を最重要課題の一つと位置づけ、責任を持って効果的な施策の推進に力を注げ。



烏山川緑道(船橋5丁目)



区のごみの焼却実施率が過去1年間で約15%減少したにもかかわらず、関連予算を増額したことにより区民の理解は得られない。環境対策に本気で取り組むのならば、ごみ焼却炉を減らすという気概を持って、ごみの発生抑制とリサイクルを徹底的に進めよ。

効率性や即効性を求めて目まぐるしく行われる組織改正とそれに伴う人事異動は、区民の不便や不信だけではなく、職員の職務に対する意欲と能力の低下を招いた。区は、必要性に疑問を感じるシンクタンクを設置する前に、まず、職員がじっくり区民と向き合い、意欲を持って仕事に専念できる環境を整えよ。また、まちづくり出張所は、区民の立場で再度見直し、出張所改革で後退したまちづくり機能を回復せよ。

狭あい道路の拡幅整備は、地域の生活環境の改善と災害時の安全の確保につながる重要なまちづくり事業だ。依然として区内に多く残る狭あい道路の解消に向け、最重要かつ最優先で取り組むべき課題と位置づけ早急に整備を進め、真に安全安心なまちを実現せよ。

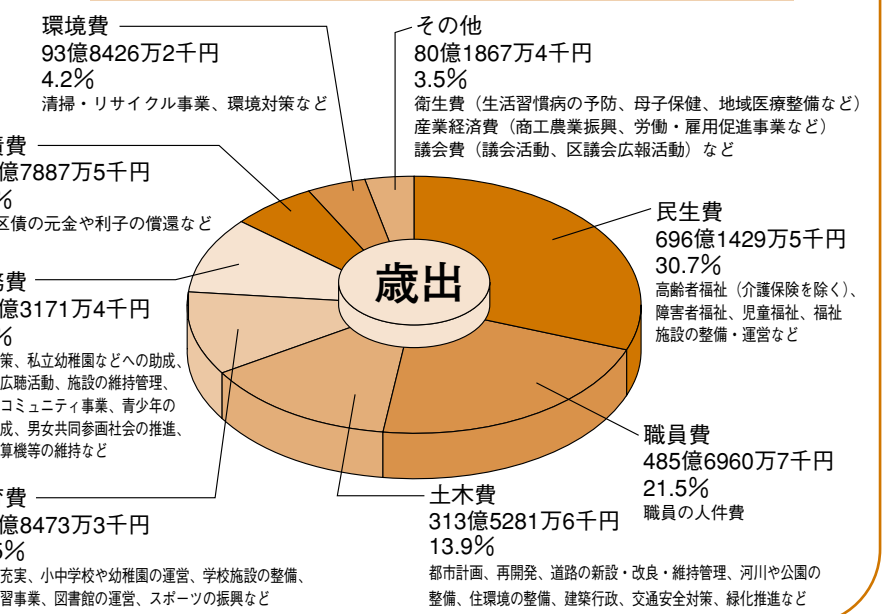
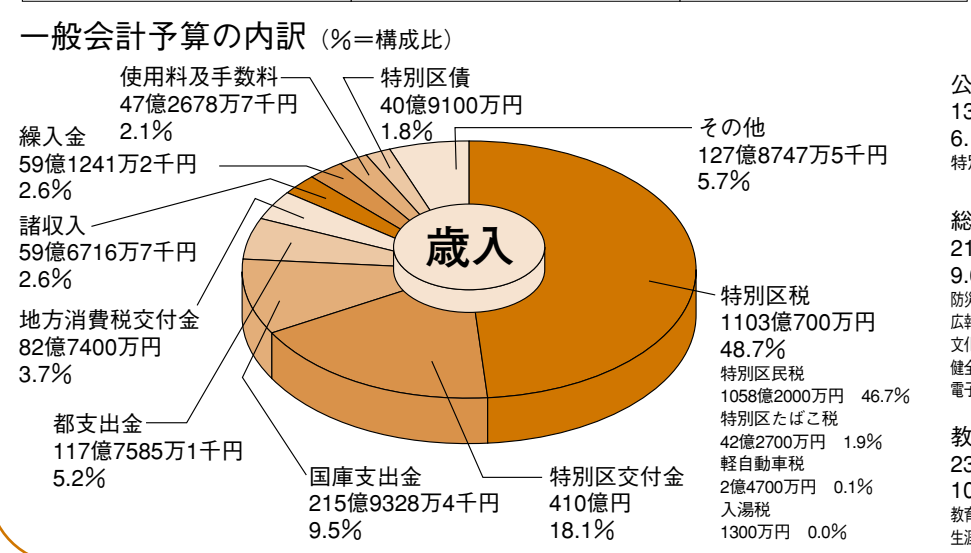
自然災害に見舞われた際の被災者の生活再建に向けた支援策を確立すべきだ。災害対策条例に具体的な生活再建支援策を明示し、本気で区民の生命や財産、生活を守るといふ区の強い姿勢を示せ。

地方分権を推進する本来の目的は、ゆとりと豊かさを実感できる社会の実現であることを決して忘れてはならない。区は、ともに支えともに生きる地域福祉を一層推進し、地域コミュニティの確立と福祉文化の創造になお一層の努力を重ねよ。

平成19年度 予算のあらまし

●平成19年度各会計予算●

内容	対前年度比伸び率 (%)
一般会計	2264億3497万6千円 5.4
国民健康保険事業会計	773億8720万5千円 14.5
老人保健医療会計	580億9612万1千円 -1.4
介護保険事業会計	387億8840万6千円 4.1
中学校給食費会計	2億968万6千円 -9.7
計	4009億1639万4千円 5.8



第2回定例会は6月に開催する予定です。

（1ページからの続き）

議会日誌

閉会中に開催された委員会

- 18年12月14日（木）企画、区民、文教
- 15日（金）福祉、都市
- 19日（火）議運
- 19年1月31日（水）議運
- 2月13日（火）企画、区民、文教
- 14日（水）福祉、都市
- 19日（月）分権、オウム、清掃、交通
- 22日（木）議運

会期中の主な会議日程

- 3月1日（木）本会議（代表質問）、文教、議運
- 2日（金）本会議（代表質問、一般質問）
- 5日（月）本会議（一般質問、議案の付託、議案の議決、請願の付託）、議運、予算
- 6日（火）企画、区民、文教
- 7日（水）福祉、都市
- 8日（木）分権、オウム、清掃、交通
- 12日（月）本会議（議案の議決）、議運、オウム
- 13日（火）予算（総括質疑）
- 14日（水）予算（企画総務委員会所管分）
- 16日（金）予算（区民生活委員会所管分）
- 19日（月）予算（福祉保健委員会所管分）
- 22日（木）予算（都市整備委員会所管分）、企画、議運
- 26日（月）予算（文教委員会所管分）
- 27日（火）予算（補充質疑）
- 29日（木）本会議（議案の議決、請願の付託）、企画、議運

委員会名称

- 企画 = 企画総務委員会
- 福祉 = 福祉保健委員会
- 文教 = 文教委員会
- 分権 = 地方分権・庁舎問題等対策委員会
- オウム = オウム問題・災害・防犯対策委員会
- 清掃 = 清掃・リサイクル対策委員会
- 交通 = 公共交通機関対策等委員会
- 予算 = 予算委員会
- 区民 = 区民生活委員会
- 都市 = 都市整備委員会
- 議運 = 議運運営委員会
- 議案 = 議案等対策委員会
- 防犯 = 防犯対策委員会
- 対策 = 対策委員会
- リサイクル = リサイクル対策委員会
- 対策 = 対策委員会
- 予算 = 予算委員会

- 年次有給休暇の付与期間の暦年から年度への変更。
- 幼稚園教育職員給与条例（全員賛成）
- 期末手当及び勤勉手当の算定に係る職務段階などに応じた加算割合の上限の変更。
- 職員の特殊勤務手当条例（全員賛成）
- 感染症予防法の改正によるもの。
- 職員団体のための職員の行為制限特例条例

- 感染症診療協議会条例（全員賛成）
- 感染症法の改正に伴う委員構成や定足数の規定の変更など。
- 住宅条例
- 副収入役設置条例（全員賛成）
- 地方自治法の改正に伴う副収入役の廃止。
- 工事請負契約の締結
- 砦総合支所・区民会館改築工事

- 松沢保育園改築工事（全員賛成）
- 工事委託契約の締結
- 工事請負契約の変更
- 仮称野川水道橋新設工事（全員賛成）
- 工法変更による契約金額の変更。
- 指定管理者の指定
- 区営住宅（全員賛成）
- 特定公共賃貸住宅（全員賛成）
- 特別区区民・厚生事務組合規約変更（全員賛成）
- 特別区競馬組合規約変更

- 清掃一部事務組合規約変更（全員賛成）
- 臨海部広域斎場組合規約変更（全員賛成）
- 特別区道路線の認定
- 損害賠償額の決定
- 児童の負傷事故に係る損害賠償額の決定。
- 福祉のいえ・まち推進条例の一部改正（全員賛成）
- 障がい者施設の新法によるバリアフリー新法の施行によるもの。
- 議員提出議案
- 政務調査費交付条例の改正（全員賛成）
- 収支報告書や支出に係る領収書などのホームページでの公表を規定。
- 区議会委員会条例の改正（全員賛成）
- 地方自治法の改正に伴い閉会中の委員の選任方法を規定。

- 区議会会議規則の改正（全員賛成）
- 地方自治法の改正に伴い委員会の議案提出権を規定。

- 正副委員長の互選結果の報告
- 予算特別委員会
- 委員 長 島山 晋一（自民）
- 副委員長 佐藤 弘人（公明）
- 副委員長 吉田 恵子（区民連）
- 議員の失職と辞職
- 西崎光子議員（区民連）は、3月30日に東京都議会議員補欠選挙に立候補したため、区議会議員を失職しました。また、平山八郎議員（自民）は3月31日付で区議会議員を辞職しました。この結果、区議会の党派等の構成は次のとおりになりました。

自由民主党	世田谷区議団	16人
公明党	世田谷区議団	11人
民主党	世田谷区議団	9人
生活者ネットワーク	世田谷区議団	4人
世田谷区政策協議会	世田谷区議団	3人
日本共産党	世田谷区議団	1人
世田谷改革派	世田谷区議団	1人
無党派市民	世田谷区議団	1人
レインボー世田谷	世田谷区議団	1人
無所属	世田谷区議団	1人
合計		47人

（欠員5人）

編集後記

○区議会だよりのテーパー版を発行しています。視覚障害のある方がいらっしやいましたら、ご連絡ください。

○お問い合わせやお気づきの点がありましたら、区議会事務局調査係までお寄せください。

TEL（五四三二）二七七九